

時 の 人 新 建 設 局 長

池 田 嘉 六 氏

内閣が更る度に技術方面の幹部まで交迭する事は有害無益の様であるが、然し當局者が大局を誤らない限りは善用される場合もある

昨年七月鐵道省の大異動があつて、思ひもよらぬ人が二人動いた、一人は池田東京第一改良事務所長、他の一人は橋本東京第一改良事務所長であつた。局課廢合の犠牲とは云へ此二人が省外に出れば省内技術方面勢力の凋落甚しきを思はしめるものがあつた。

實際宣傳の下手な、而して共同の力の弱い技術界は、政治的の嵐に遭つては見ジメなものである。誰が眼にも、八田嘉明氏が次官當時の鐵道省技術幹部に比較して昨年中の凋落ぶりを残念がらぬものはあるまい。然るに其後、久保田敬一氏が次官となり、其所に微かながら一道の光明を認める事が出来た。

橋本氏が關西に去つて、大阪市の高速度鐵道建設部に入つて後も、池田氏は黙々として鐵道協會の將棋に親しんでゐた。それが昨年来の政變で鐵道省に返り咲き、然も一度廢止を傳へられた建設局に長として復活する事となつたのであるから、池田氏の爲にも建設局の爲にも欣幸至極である。工務、建設兩局長兼任であつた黒河内博士も、これでやつと本々の工務局に専念出来たわけである。

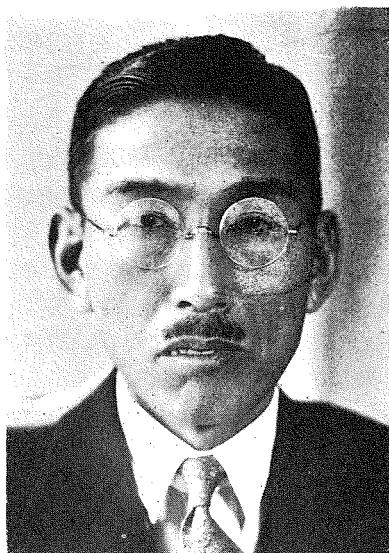
池田氏は建設局の計畫課長としての經驗があるので、建主改從主義と言ふか、兎に角に床次鐵相の方計たる建設線の擴充の爲には無くてならぬ適任者である。

池田氏は圓滿な人格者であるから、特に頭角を露す様な

目立 た事はしない。官僚的な處がなく、特に部下を愛する點は氏の徳望の存する處だ。

池田氏は大學在學中から數學の天才でつたと言ふ事は知る人が少い、それ程に現在の池田氏は杓子定規の様な處は微塵もなく、寧ろ腹の人である。今回の局長就任も一點情實に依つたものではなく、氏の温厚なる性格と俱に其實力の捨つ可らざるものがあつたからである。

池田氏は明治三十九年東大土木科を出で直に鐵道作業局に入り、四十二年技師に任ぜられ鹿兒島建設事務所、宮崎建設事務所等を経て大正八年建設局工事課勤務となり、大正十二年六月歐米各國へ出張を命ぜられ、同十三年七月歸朝して直に東京建設事務所長となり清水隧道工事其他に當つて。昭和二年三月建設局計畫課長として本省に入り、同四年七月米山辰夫氏が門鐵局長に轉じた後を襲いで東京第二改良事務所長となり、忍任自重してゐたが昨年七月の所謂江木鐵相の局課廢合の際の犠牲となつて鐵道省を去つたのである。それが昨年十二月も押迫つて建設局長として再び鐵道省に戻つたのである。政界の前途は種々様々な豫感を與へるが、國家の爲に局課の確保と池田氏の健在を祈るものである。



池田嘉六